

IV. 分子データワークシート例 MRSA 検出患者 ID _____ 氏名 _____ 病棟名 _____ 入院日 _____ 月 _____ 日 _____

判定者： 担当医

担当医以外の医師：ICD/感染症専門医

ICP

MRSA 培養陽性？

NO

対象外

培養陽性検体 _____

敗血症・菌血症モジュール

血液培養がMRSA陽性かつ、以下のいずれかにあてはまる（なくてもよい）

急な発熱 +/-

点状出血斑

紫斑

バラ疹

他、敗血症・菌血症診断基準を満たす

医師が敗血症に対する治療を開始する

その他 _____

肺炎モジュール

喀痰あるいは血液培養がMRSA陽性かつ、以下のいずれかにあてはまる（なくてもよい）

膿性痰を伴う咳のある発熱性症状

小児では、呼吸即迫

他、肺炎診断基準を満たす

その他 _____

尿路感染症モジュール

中間尿検体あるいはカテーテル尿培養がMRSA陽性（10⁵/mL）

血液培養がMRSA陽性かつ、以下のいずれかにあてはまる（なくてもよい）

頻尿、排尿困難、カテーテル挿入に伴う発熱、他に感染巣がある

他、尿路感染症診断基準を満たす

その他 _____

手術感染症モジュール

膿あるいは手術創分泌物がMRSA陽性かつ、以下のいずれかにあてはまる（なくてもよい）

手術創より膿分泌 +/-

発熱

他、手術創感染症診断基準を満たす

その他 _____

その他感染症モジュール

MRSAによる以下の感染症がある

肺炎以外の呼吸器感染症

消化器感染症

中枢神経系感染症

皮膚・軟組織感染症

その他感染症

あるいは、

以下の感染症症状がある

発熱

局所の腫脹

発赤

膿性排液

その他 _____

YES

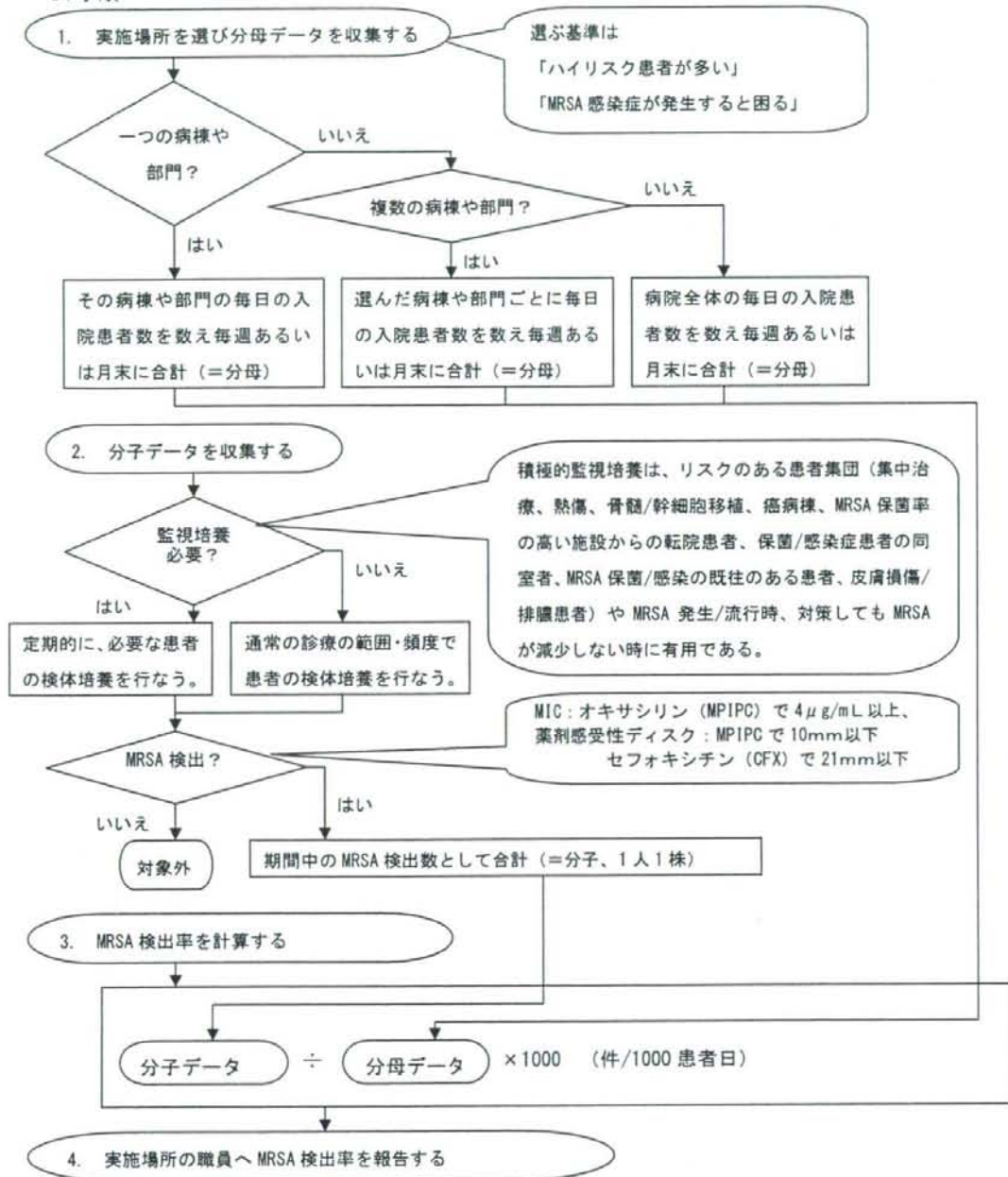
NO

MRSA 感染症あり
発生日 _____ 月 _____ 日 _____

MRSA 感染症なし/培養

B. MRSA 検出サーベイランス

I. 手順



II. 分母データワークシート例

* 毎日〇時に入院患者数を記入し毎週あるいは月末に合計する。

〇年〇月	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
10日					
11日					
12日					
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日					
20日					
21日					
22日					
23日					
24日					
25日					
26日					
27日					
28日					
29日					
30日					
31日					
合計(分母)					

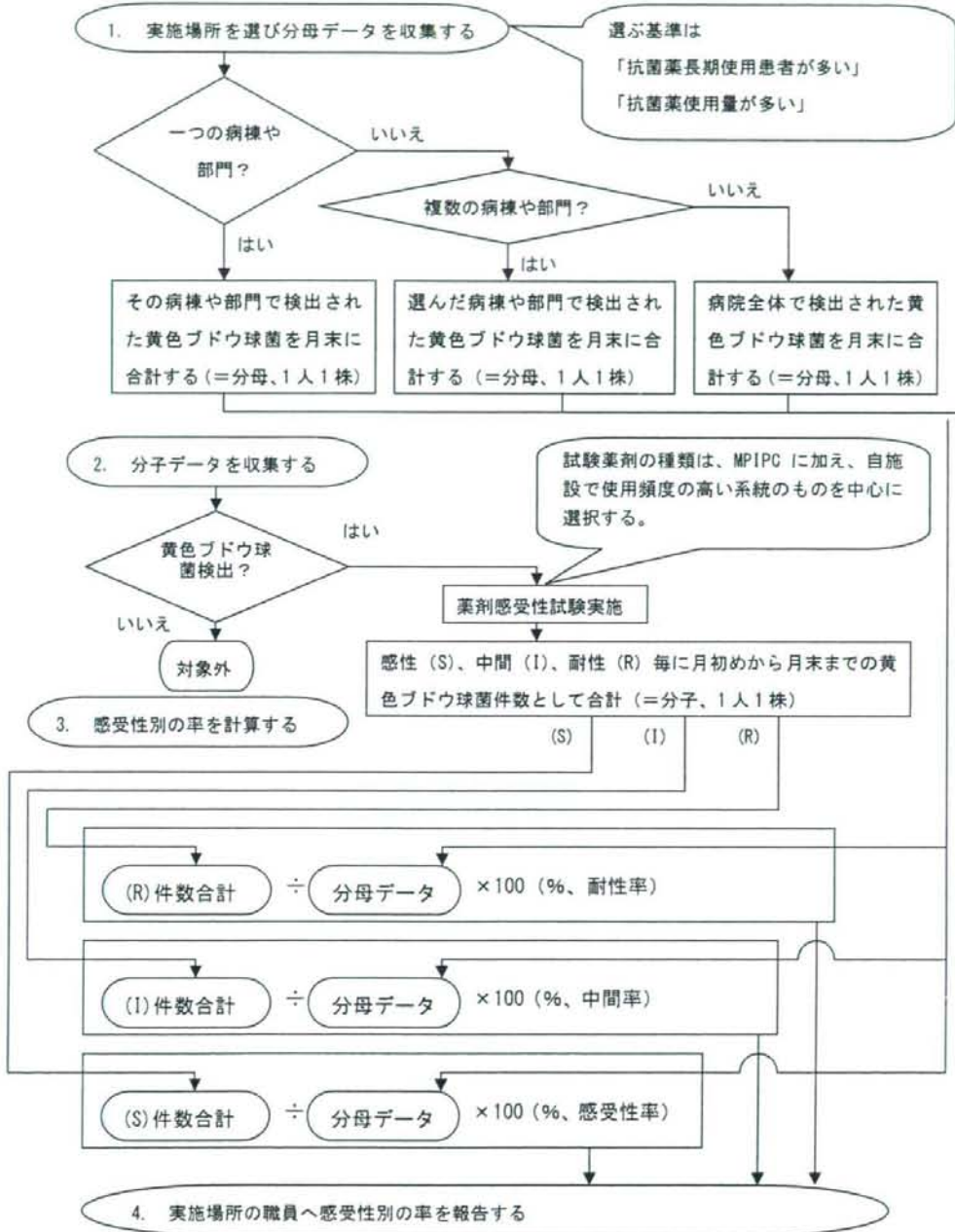
Ⅲ. 分子データワークシート例

* 毎日〇時に MRSA 検出患者 ID を記入する。毎週△曜日に 1 週間の検出数合計を算出する。

〇年〇月 第〇週	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
日 (月)					
日 (火)					
日 (水)					
日 (木)					
日 (金)					
日 (土)					
日 (日)					
合計					

C. 黄色ブドウ球菌薬剤感受性サーベイランス

I. 手順



II. 報告書例

〇〇病棟 医長

〇〇様

2008 年 9 月 5 日

感染管理担当 〇〇〇〇

黄色ブドウ球菌感受性サーベイランス報告

貴病棟の上半期の黄色ブドウ球菌感受性サーベイランス結果をご報告します。

昨年下半年期と比べて、MPPIC 感受性率はほとんど変わらないため、検出された黄色ブドウ球菌に占める MRSA 率に変化ありませんが、ABK (★) では感受性率が低下しております。

ハベカシンの使用方法についてご再考ください。

ご不明な点がありましたら、〇〇 (内線〇〇) までご連絡ください。

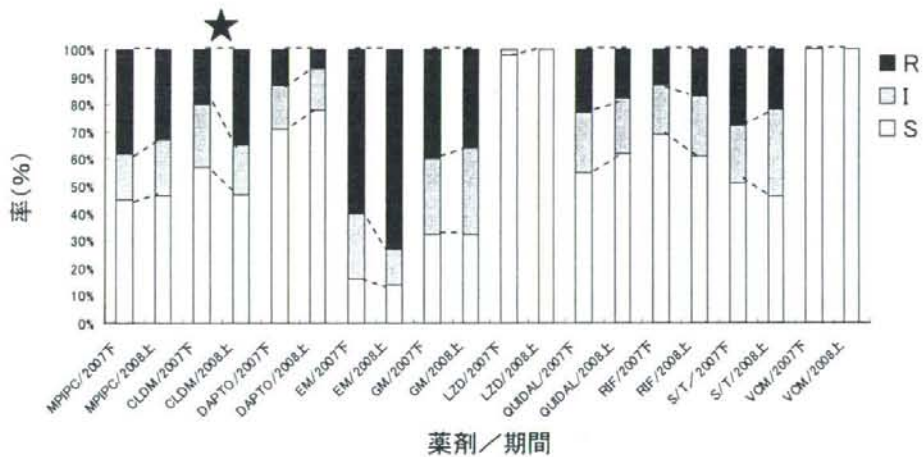


図 2007 年下半年期～2008 年上半期の〇〇病棟における黄色ブドウ球菌感受性率の推移
 (注) 感受性率=期間中に検出された黄色ブドウ球菌あたりの感性 S・中間 I・耐性 R 菌件数
 =S・I・R/黄色ブドウ球菌検出数*100 (%)

Ⅲ. 黄色ブドウ球菌感受性分子データワークシート例

黄色ブドウ球菌検出患者 ID _____ 氏名 _____ 病棟名 _____
 検体提出日 _____ 検体種類 _____

薬剤	感受性
CLDM	
EM	
GM	
LZD	
MPIPC	
QUIDAL	
RFP	
S/T	
VCM	
TEIC	
ABK	

CLDM = clindamycin EM = erythromycin GM = gentamycin LZD = linezolid
 MPIPC = oxacillin QUIDAL = quinupristin/dalfopristin RFP = rifampin
 S/T = sulfamethoxazole/trimetoprim VCM = vancomycin TEIC = teicoplanin
 ABK = arbekacin

S = 感性 I = 中間 R = 耐性 N = 検査せず を記載

IV. 黄色ブドウ球菌感受性集計用データワークシート例

期間 月 日～ 月 日 病棟名 _____

薬剤	S	感受性			株	検査合計
		株	I	R		
CLDM	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
EM	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
GM	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
LZD	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
MPIPC	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
QUIDAL	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
RIF	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
S/T	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
VCM	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
TEIC	S	株	I	R	株	株
		%			%	100%
ABK	S	株	I	R	株	株
		%			%	%

CLDM = clindamycin EM = erythromycin GM = gentamycin LZD = linezolid

MPIPC = oxacillin QUIDAL = quinupristin/dalfopristin RFP = rifampin

S/T = sulfamethoxazole/trimetoprim VCM = vancomycin TEIC = teicoplanin

ABK = arbekacin

S = 感性	I = 中間	R = 耐性
--------	--------	--------

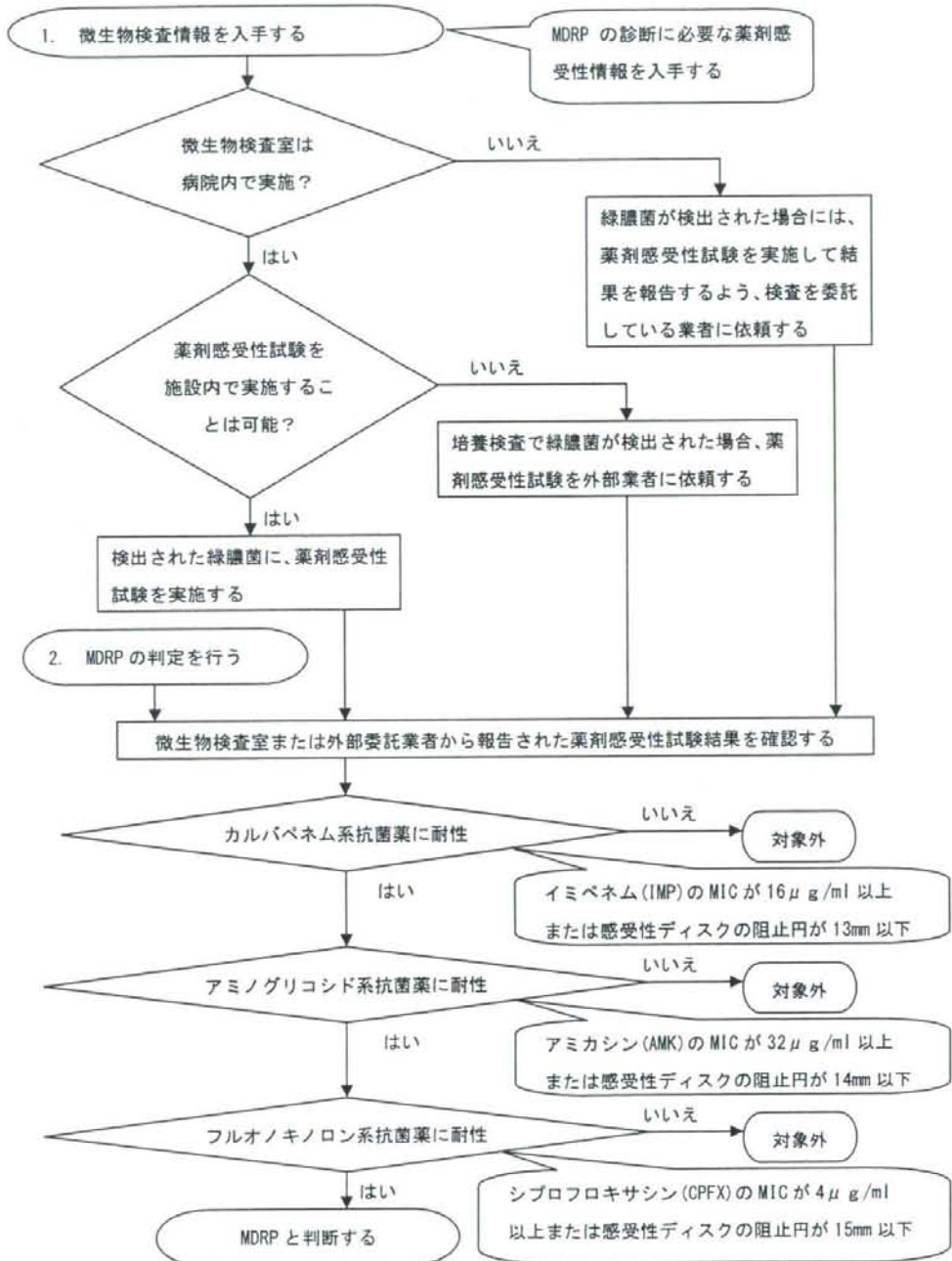
付録

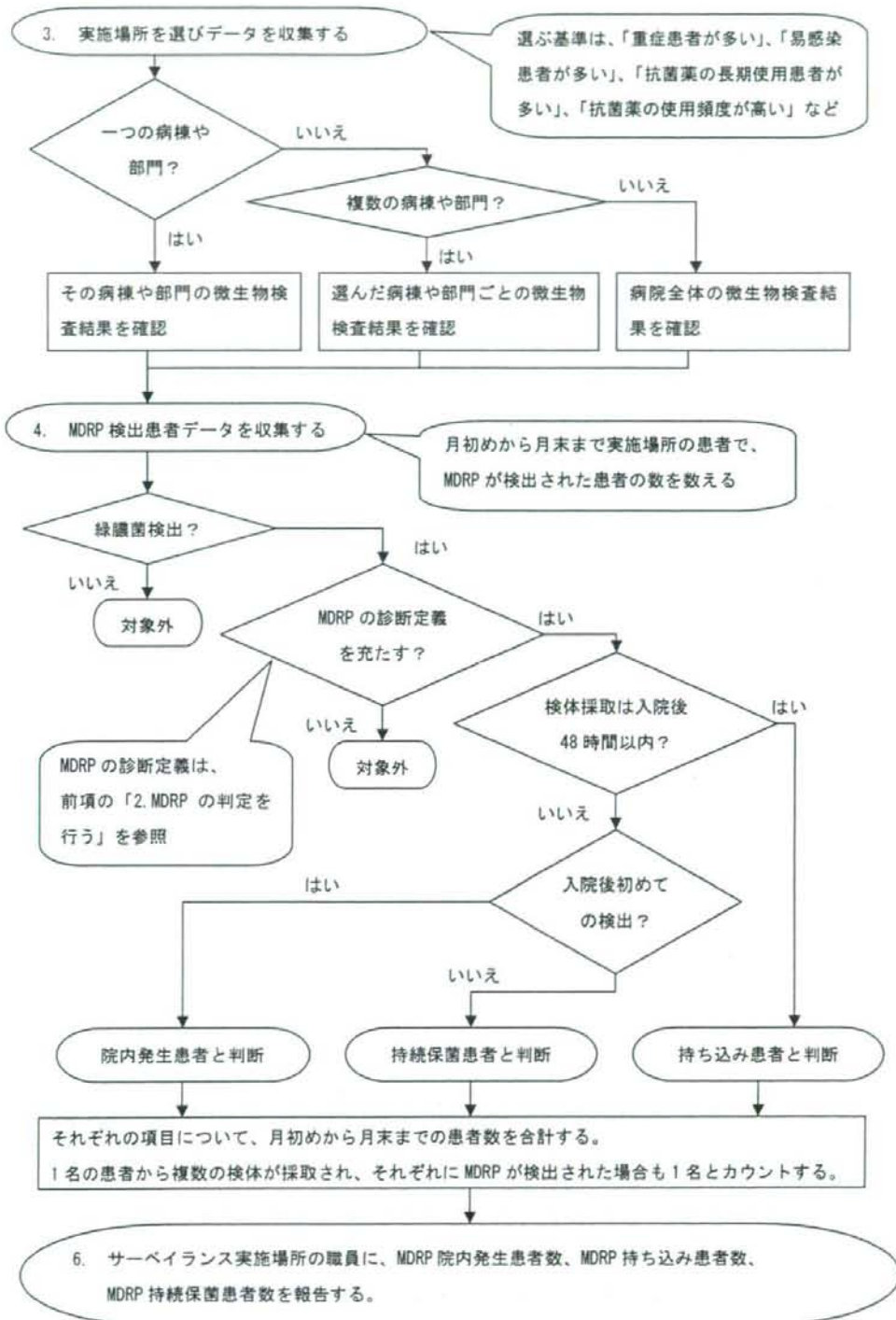
MRSA 関連サーベイランスの種類と目的

種類	MRSA 感染症サーベイランス	MRSA 検出サーベイランス	黄色ブドウ球菌 感受性サーベイランス
目的	感染症治療の評価 感染管理対策の評価 など	接触感染予防策の評価 薬剤耐性菌対策の評価 アウトブレイクの察知 など	抗菌薬適正使用の評価 薬剤耐性化の察知 など
対象	病棟/部門	病棟/部門 病院全体	病棟/部門 病院全体
データ	MRSA 感染率 分子・・・MRSA 感染症 患者数(院外からの持 込、保菌、感染) 分母・・・患者日数	MRSA 検出率 分子・・・MRSA 検出患者 数(院外からの持込、保 菌、感染) 分母・・・患者日数 (観察期間中、1人1株)	黄色ブドウ球菌における、 各薬剤への感受性(S/I /R)率 分子・・・各薬剤における 感性(S)/中間(I)/耐性 (R)黄色ブドウ球菌検体 数 分母・・・黄色ブドウ球菌 検体数 (観察期間中、1人1株)
感染症判定	必要	必要なし	必要なし
観察期間(例)	月	週	月
報告間隔(例)	月	週あるいは随時	月あるいは半期

中小規模施設向け MDRP(多剤耐性緑膿菌)サーベイランス手順書案

I. 手順





II. 報告書例

〇〇病棟 看護師長

〇〇様

2008年9月5日

感染管理担当 〇〇〇〇

MDRP(多剤耐性緑膿菌)サーベイランス報告

貴病棟の8月のMDRP(多剤耐性緑膿菌)サーベイランス結果をご報告します。

今年4月以降、MDRP 持ち込み患者が続いて確認されています。MDRP は、いずれも尿道留置カテーテルを使用している患者の尿検体から検出されています。現在までに院内発生や院内伝播が疑われる事例は確認されておりませんが、尿道留置カテーテル使用患者が多い貴病棟においては、十分な注意が必要です。MDRP 患者への接触感染対策（病室隔離、手指衛生、個人防護具の着用など）、他患者への標準予防策の遵守状況などを今一度御確認下さい。また、蓄尿バックからの尿の回収手技が、他施設で発生したアウトブレイク事例に共通する感染経路として報告されています。尿の回収手技の前後に実施する手指衛生、手袋、ガウンの交換等を徹底して下さい。

ご不明な点がございましたら、〇〇（内線〇〇）までご連絡ください。

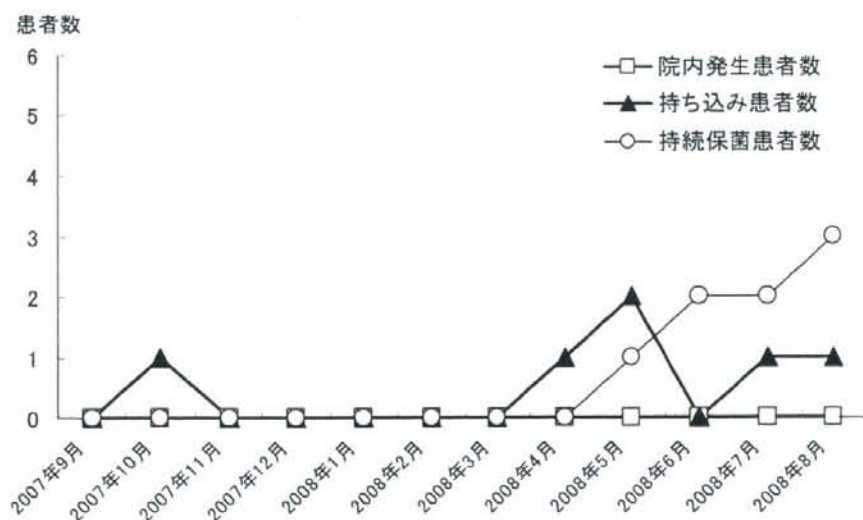


図 2007年9月～2008年8月の〇〇病棟における
MDRP 院内発生患者数、持ち込み患者数、持続保菌患者数の推移

Ⅲ. MDRP 検出患者データワークシート例

MDRP(多剤耐性緑膿菌)検出患者

ID _____ 氏名 _____ 病棟名 _____

カルバペネム、アミノグリコシド、フルオロキノロンの三系統全てに耐性の *P. aeruginosa*(緑膿菌)が検出されている。薬剤耐性基準は下記の通り。

- ・ カルバペネム (IPM/CS、MEPM) の何れかの薬剤感受性試験結果が“R(耐性)”である。
イミペネム(IMP)のMICが $16\mu\text{g/ml}$ 以上または感受性ディスクの阻止円が13mm以下
- ・ アミノグリコシドの薬剤感受性試験結果が液体微量希釈法で“S(感性)”以外、又はディスク拡散法で“R(耐性)”である。
アミカシン(AMK)のMICが $32\mu\text{g/ml}$ 以上または感受性ディスクの阻止円が14mm以下
- ・ フルオロキノロン (NFLX、OFLX、LVFX、CPFX、LFLX、GFLX) の何れかの薬剤感受性試験結果が“R(耐性)”である。
シプロフロキサシン(CPFX)のMICが $4\mu\text{g/ml}$ 以上または感受性ディスクの阻止円が15mm以下

入院日 _____

検体提出日 _____

検体名 _____ 下記より選択

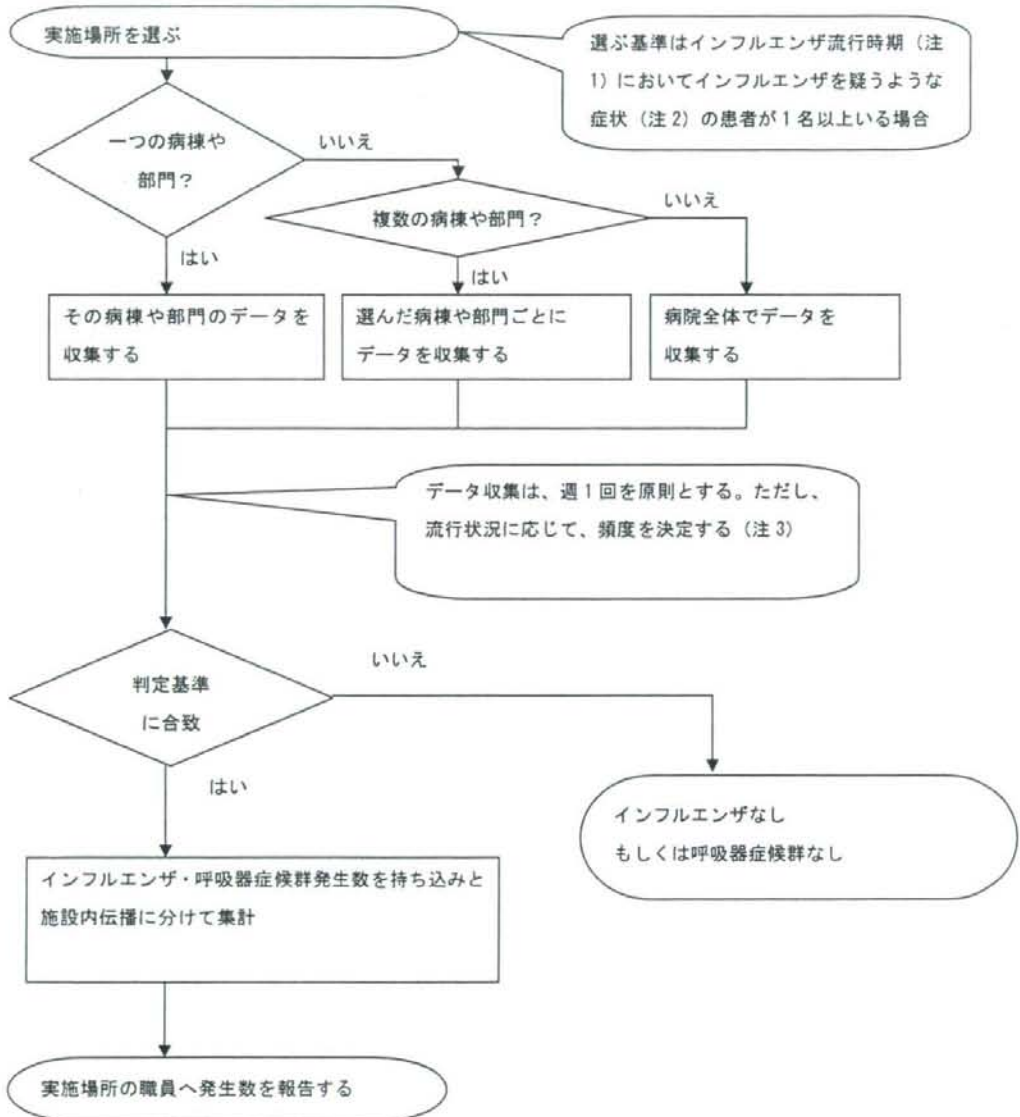
喀出痰 気管内探痰 気管支洗浄 液咽頭粘液 鼻腔内 口腔内 生検材料(肺) その他(呼吸器)
 自然排尿 採尿カテーテル尿 留置カテーテル尿 尿道分泌物 膿分泌物
 カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能) その他(泌尿・生殖)
 糞便 胃・十二指腸液 胆汁 生検材料(消化管) その他(消化管)
 静脈血 動脈血 髄液 胸水 腹水 関節液 骨髓液 心嚢水 その他(穿刺液)
 耳分泌物 眼分泌物 皮膚 褥創 羊水 開放性膿 閉鎖性膿 創部 CAPD(持続腹膜透析)排液
 中心静脈カテーテル先端 カテーテル刺入部 その他のカテーテル 胸腔ドレーン排液 胸腔ドレーン先端
 腹腔ドレーン排液 腹腔ドレーン先端 ドレーン刺入部 その他のドレーン 生検材料(リンパ節)
 その他の生検・手術材料 その他の材料

新規 継続 判定者 _____

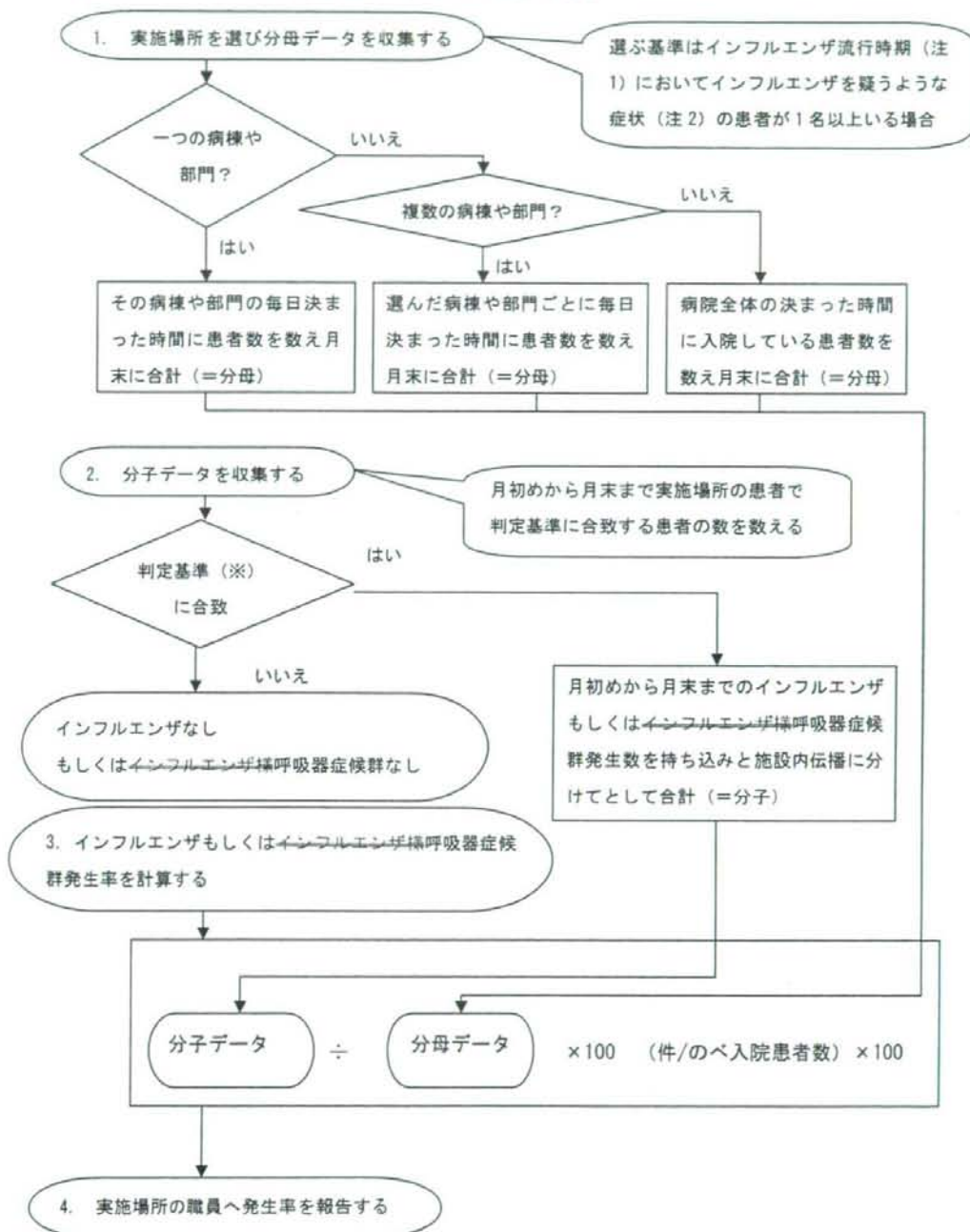
中小規模施設向けインフルエンザ&呼吸器症候群サーベイランス手順書案

I. 手順

A: インフルエンザ・呼吸器症候群発生数サーベイランス（患者または職員）



B: インフルエンザ・呼吸器症候群発生率の把握 (患者)



注1

例年に流行時期に準じて10月～5月。ただし、地域により毎年の流行時期、程度、ピーク時期が異なるため、感染症発生動向調査結果等の情報に準じて実施すること。

(参考) 国立感染症研究所感染症情報センターインフルエンザ流行レベルマップ

<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Hasseidoko/Levelmap/flu/index.html>

注2

現疾患に関係のない突然の38℃～39℃以上の発熱がある。

加えて

頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状もしくは咳、鼻水、咽頭痛などの呼吸器症状がある。

あるいは

簡易検査でインフルエンザ抗原陽性の診断がついている。

*注3 データ収集の頻度の目安

毎日:「同日に複数名の発生が認められる」または「連日にわたり発生が認められる」場合

週単位:潜伏期間を過ぎても次の発生が認められない場合

II. 報告書例 (A:呼吸器症候群発生数サーベイランスの場合)

〇〇病棟 各位

2008年12月11日

感染管理担当 〇〇〇〇

呼吸器症候群発生数サーベイランス日報

呼吸器症候群発生数サーベイランス日報の報告をいたします。

12月に入り、散発での報告が認められていましたが、8日以降は急激に報告数が増加しており、病棟内での伝播が確認できます。

インフルエンザの場合、潜伏期間は24時間です。呼吸器症候群発生の患者さんはインフルエンザの可能性がります。感染対策マニュアル〇ページ「インフルエンザ対策」に読んで頂き、飛沫接触感染対策の遵守をお願いいたします。

また職員で38℃以上の発熱がある場合、ご連絡下さい。なお、インフルエンザワクチン未接種の方はワクチン接種をお願い致します。

その他、ご不明な点がございましたら、〇〇(内線〇〇)までご連絡ください。

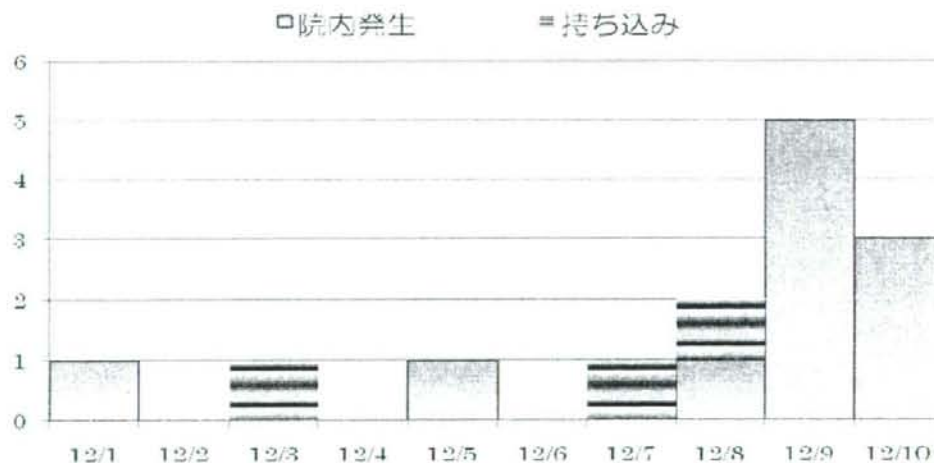


図 2008年12月の〇〇病棟における呼吸器症候群発生発生数の推移

II. 報告書例 (B. インフルエンザ発生率サーベイランス)

職員のみなさま

2008年1月5日

感染管理担当 ○○○○

インフルエンザ発生率サーベイランス報告

当施設の10～12月のインフルエンザ発生率サーベイランス結果をご報告します。

今年度は昨年に比べ発生率が高く、すでに流行の兆しがあります。

インフルエンザの診断がついておらず呼吸器症状を有する患者さんにもインフルエンザ発生時対応に準じて飛沫接触感染対策を行ってください。また職員で38℃以上の発熱がある場合、ご連絡下さい。

なお、インフルエンザワクチン未接種の方はワクチン接種をお願い致します。

やむを得ない場合等、何かありましたご相談に応じます。

その他、ご不明な点がございましたら、○○（内線○○）までご連絡ください。

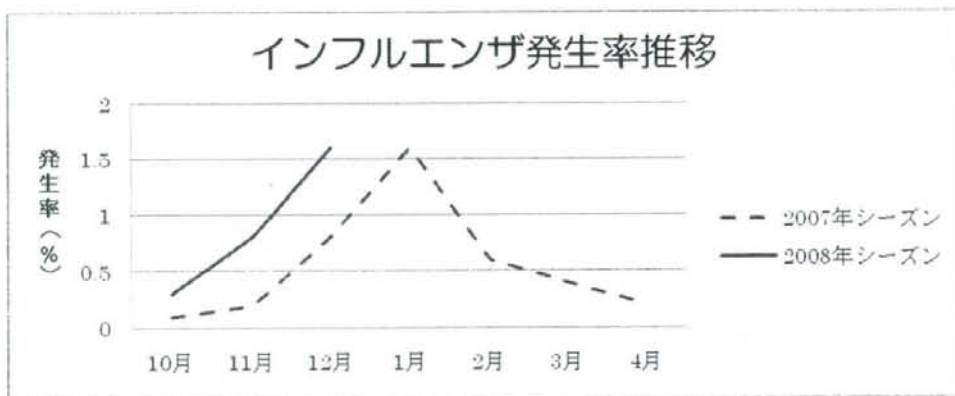


図 2008年10月～12月の当施設におけるインフルエンザ発生率(注)の推移
—2007年10月～2008年3月との比較—

(注) 発生率=患者100人あたりのインフルエンザ発生件数
=インフルエンザ発生件数/のべ入院患者数 × 100

Ⅲ. 分母データワークシート例 (B: インフルエンザ・呼吸器症候群発生率サーベイランス)

* 毎日〇時の患者数を記入し月末に合計する。

〇年〇月	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
10日					
11日					
12日					
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日					
20日					
21日					
22日					
23日					
24日					
25日					
26日					
27日					
28日					
29日					
30日					
31日					
合計(分母)					

IV. 分子データワークシート例

〔 判定基準 A:インフルエンザ・呼吸器症候群発生数サーベイランス
B:インフルエンザ・呼吸器症候群発生率サーベイランス 〕

インフルエンザ様呼吸器症候群（もしくはインフルエンザ）患者

ID _____ 氏名 _____ 病棟名 _____

